

第3章

心を育むまちづくり

地域社会と一体となった子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の推進、すべての町民の多様な学びの機会やスポーツに親しむ環境の充実、文化芸術活動の推進と歴史資産の保全・活用等、人を育み、町の貴重な文化、歴史を次世代に継承するまちづくりに取り組めます。



第1節 豊かな学びが育む人づくり

- 1 質の高い学校教育の推進
- 2 児童生徒の安全確保と心身の健康増進
- 3 生涯を通した学びの充実とその成果の活用
- 4 地域で育てる教育体制の充実
- 5 誰もが楽しむことができるスポーツの推進
- 6 豊かな文化の継承と文化財の活用

■章の指標

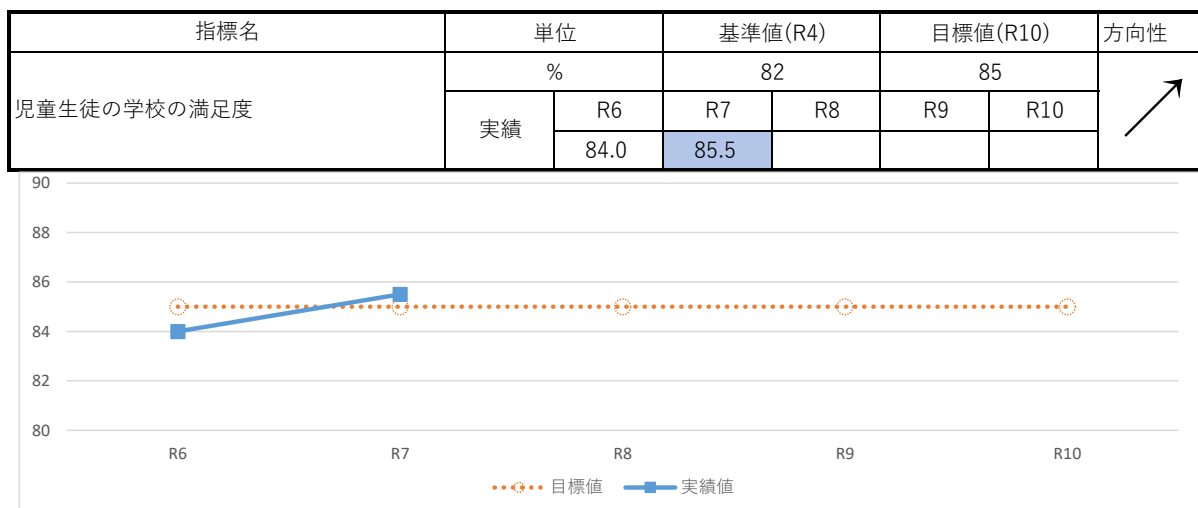
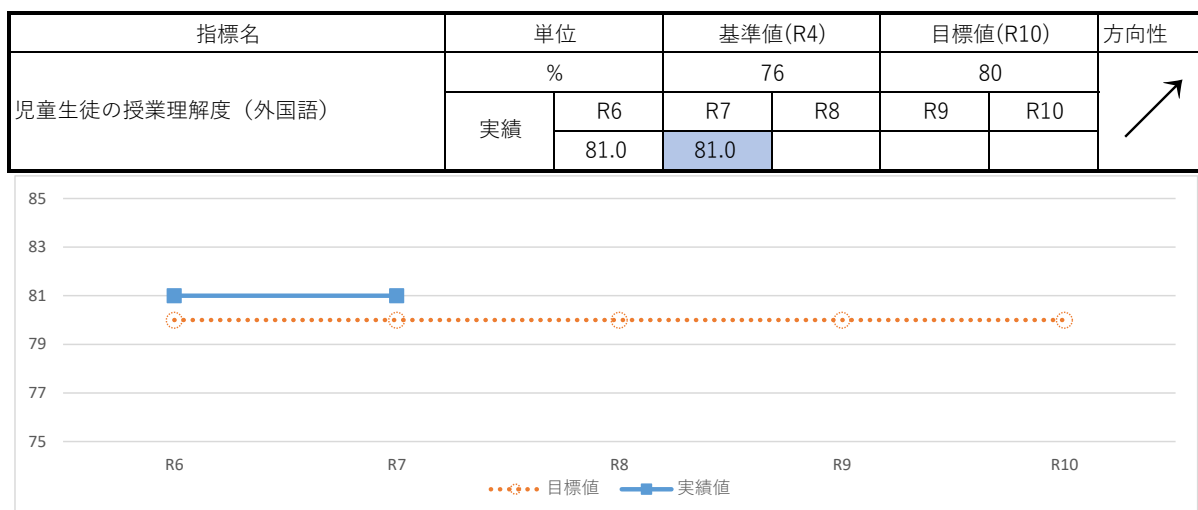
指標名	方向性
教育環境が充実していると感じている町民の割合	↗

■この章に特に関連の深いSDGsのゴール



第3章 第1節 第1施策		関連する SDGs	3 持続可能な開発目標	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	8 豊かで持続可能な雇用と経済成長	17 パートnership for the goal
節	豊かな学びが育む人づくり						
施策	質の高い学校教育の推進						
目指す姿	すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、「主体的・対話的で深い学び」による教育が進んでいます。						
関連する課	指導室 学校教育課、生涯学習課				関連する 個別計画	第2次阿見町教育振興基本計画	

施策の現状と課題	学校施設の修繕は状況等を考慮しながら計画的に行っているが、学校からの新たな要望も多い。町ではスクールカウンセラー2名、スクールソーシャルワーカー2名を独自で配置している。どの学校においても、支援が必要な児童生徒、保護者が年々増加傾向にあり、それに比例して相談希望が増え、相談活動が追いつかない現状も見られる。
----------	--



施策の進捗	今後の取組方針
B	施設修繕の必要性を考慮しながら町と学校が連携して学校施設の運営を図る。 学校と町が問題点と解決策を共有することで、計画的に課題解決を図る。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	全小中学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、英語教育の充実を図った。 専科教員を配置し、専門的な授業を各校で実施した。 ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の支援、ICT化による教員の業務負担軽減を図った。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、相談や支援を行った。 阿見第二小学校、君原小学校に続き、阿見第一小学校、舟島小学校で学校運営協議会を設置した。
R7	阿見第二小学校、君原小学校、阿見第一小学校、舟島小学校に続き、本郷小学校で学校運営協議会を設置した。 全小中学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、英語教育の充実を図った。 県の英語専科加配教員（2名）を配置し、専門的な授業を各校で実施した。 ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の支援、校務DXを進めることで教員の業務負担軽減を図った。
R8以降	（次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します）

今後発生が予測される課題
特になし。

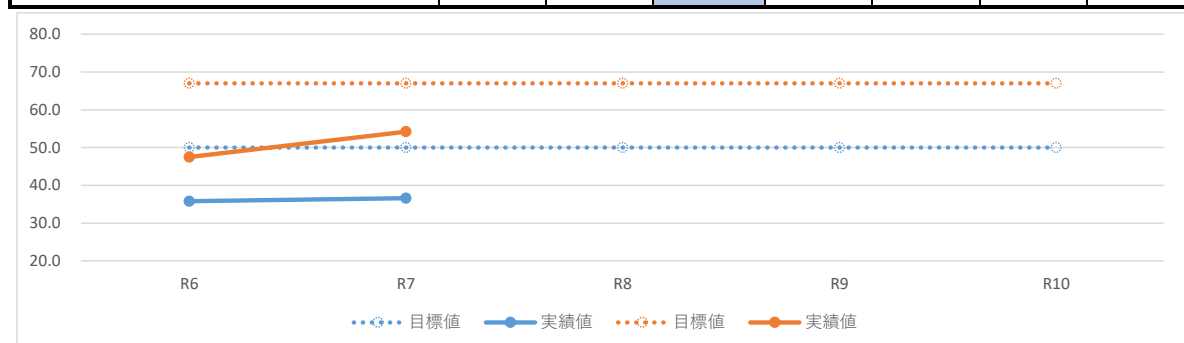
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	社会の変化に伴う教育課題の変化や増加、深刻化を改善するためには、地域とともにある学校づくりが重要である。そのために町内全校への学校運営協議会の設置を計画的に進めていく。 部活動地域移行に向けての計画性をもって推進し、指導者確保等の課題については近隣地域の取組を参考にしながら、持続可能な仕組みの構築を目指す。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
時代に合った確かな学力を育成する教育の推進	外国語教育の充実、教育のデジタル化、教科担任制が進み、多文化への理解、情報モラル、学びへの興味・関心が育まれ、確かな学力が定着しています。	英語教育推進事務 小学校専科教員配置事務 ICT活用推進事務
学校の働き方改革と教職員の支援	部活動の地域移行、学校サポーター、ICT支援員等、様々な取組により教職員の働き方改革が進み、子どもたちと向き合う時間が確保されています。	教師の働き方改革推進事務 ICT支援員配置事務
特別な支援を必要とする児童生徒の教育の推進	支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した、きめ細かな指導が行われています。	特別支援教育支援員配置事務 専門家派遣事務
安定した質の高い教育の提供	地域の実情に即した適正な学校規模が実現しています。また、不登校等の児童生徒が抱える様々な問題にきめ細かに対応できる相談・支援体制が整っています。	学校施設整備事業 スクールカウンセラー配置事務 スクールソーシャルワーカー配置事務
学校、家庭、地域等の連携の充実	学校運営に地域の声が活かされ、地域と一体となった特色ある学校づくりが進んでいます。	コミュニティ・スクール（学校運営協議会）事務

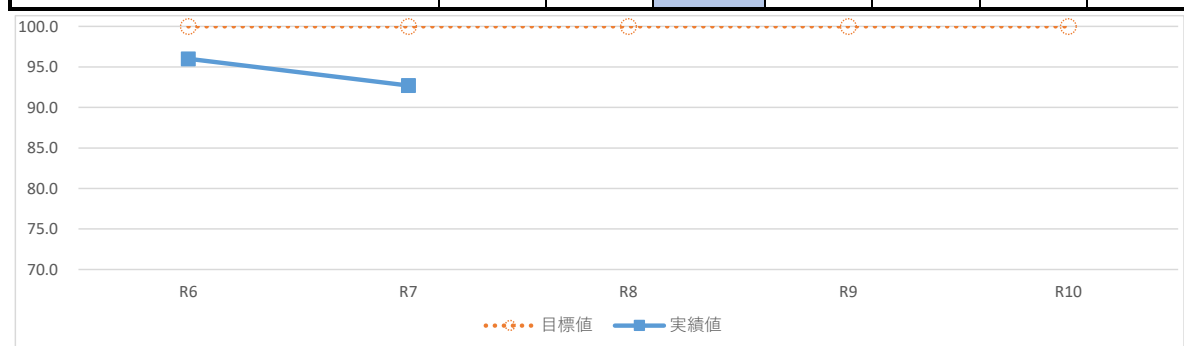
第3章 第1節 第2施策		関連する SDGs				
節	豊かな学びが育む人づくり					
施策	児童生徒の安全確保と心身の健康増進					
目指す姿	快適で安全・安心に学べる教育環境の中で、児童生徒が健やかに成長し、豊かな心が育まれています。					
関連する課	学校教育課	学校給食センター、道路課	関連する 個別計画	第2次阿見町教育振興基本計画		

施策の現状 と課題	学校給食で県産食材の占める割合は、県内自治体で3位になっている。 学校健康診断や安全対策、施設整備等により、児童生徒が安全・安心に学校生活を送るための環境整備を進めている。一方で、施設の老朽化への対応や防犯・防災対策の強化、猛暑など健康面への配慮が引き続き求められている。
--------------	---

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
①小学校スポーツテスト（A+B）の割合 ②中学校スポーツテスト（A+B）の割合	%		①34.6、②56.4		①50、②67		
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
	①	35.8	36.6				
	②	47.5	54.2				



指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
学校給食で県産食材の占める割合	%		100		100		
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		96.0	92.7				



施策の進捗	今後の取組方針
B	学校給食における県産食材の割合が目標値に達するよう、献立作成の工夫を継続していく。児童生徒が快適で安全・安心に学べる教育環境の充実を図るため、健康管理、安全対策及び学校施設整備を計画的に推進する。あわせて、関係機関や地域、保護者と連携しながら、児童生徒の健康保持・増進と安全確保に取り組む。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	学校給食における県産食材の割合は、高い水準を維持している。目標値に近づけるよう、献立作成の工夫を継続していく。
R7	学校給食における県産食材の割合は、高い水準を維持している。目標値に近づけるよう、献立作成の工夫を継続していく。 学校健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、健康の保持・増進を図った。また、反射用品の配布や防犯カメラ更新等により安全対策を強化し、学校施設の改修や設備更新を進め、安全・安心な教育環境の整備を推進した。
R8以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
学校施設や設備の老朽化が進む中、計画的な改修・更新への対応が必要となる。安全確保への対応が多様化しており、継続的な安全対策の強化と財源確保が課題となる。

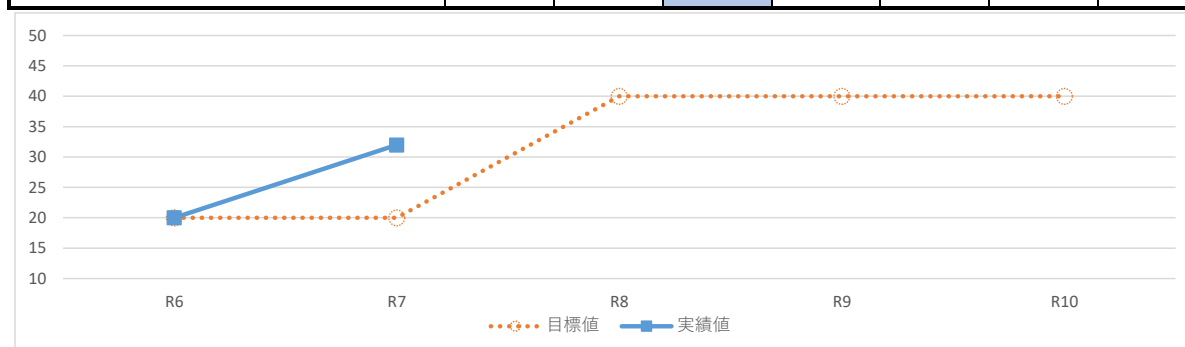
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	学校施設の大規模改修は、公共施設等総合管理計画に基づき計画的に実施している。また、学校給食では県産食材の活用が県内上位を維持しており、その成果について積極的な情報発信に努める。令和8年度は中学校3校の体育館への空調設備整備を実施し、その後、小学校への整備を順次進める計画である。児童生徒の安全で快適な学習環境の確保と、災害時の防災機能強化の観点からも重要な事業であり、引き続き計画的に整備を推進する。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
豊かな人間性と健やかな体の育成	児童生徒の健康の保持・増進が図られ、運動に親しむ資質や能力の基礎がつくられています。また、規則正しい食生活を通して健やかに成長し、生きる力が育まれています。	学校保健事務 食育活動事務
児童生徒の安全を守る環境の整備	児童生徒の登下校時や学校生活における安全・安心な環境が確保され、学校での安全教育が効果的に推進されています。	交通安全対策事務 通学路安全対策推進事務 学校防災対策事務
学びの場としての学校環境の整備	学校施設・設備の計画的な維持管理及び整備により、安全で安心して学べる教育環境が整っています。	学校施設整備事業

第3章 第1節 第3施策		関連する SDGs	4 質の高い教育をみんなに 11 持続可能なまちづくり 16 平和と公正 17 パートナーシップで未来を創ろう
節	豊かな学びが育む人づくり		
施策	生涯を通じた学びの充実とその成果の活用		
目指す姿	すべての町民が等しく生涯にわたり学び続けられる機会が提供され、一人一人が住み慣れた地域で豊かな人生を送ることができる環境づくりが進んでいます。		
関連する課	生涯学習課 中央公民館、図書館、文化課	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画

施策の現状と課題	生涯学習に関する情報提供や普及促進に努め、様々な関係機関と連携・協働していくことで、公民館活動、ふれあい地区館事業、図書館、予科練記念館等、多様な学習機会の提供ができている。
----------	---

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
あみ未来塾の受講者数	人		-		40		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		20	32				



施策の進捗	今後の取組方針
B	生涯学習を推進するとともに、講義形式だけではなく、自ら疑問を持ち課題を見つけ、新たな考えを創造するといったことも重要と考える。子ども未来塾の立ち上げについても試行として取り入れ検討していく。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	あみ未来塾では14名の2期生を迎え、全9回の講座を行った。継続コースでは、1期生6名による自主研究の成果を発表する機会を設けた。 ふれあい地区館では18行政区で出前講座を実施した。実施地区の増加に向けて、社会教育指導員から地区の委員へ、事業の提案・募集した。
R7	あみ未来塾では、新規コースにおいて、全9回の講座と2日間のプレゼンテーションを行い、継続コースでは、2期生による自主研究の成果を発表する機会を設けた。 大学連携公開講座では、茨城大学農学部の井上栄一教授による講座（全5回）を実施した。 人材バンクの登録者数は、高齢等の理由により継続登録が困難となり解除者が増加し、新規4名が加わったが前年度に比べ減少となった。
R8以降	（次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します）

今後発生が予測される課題
地域の実情・ニーズに合わせた生涯学習が提供できることが重要であるとする。学んだ知識や技能等を今後のまちづくり・地域づくりに活かし、地域のリーダーとして活躍する人材を育成する。

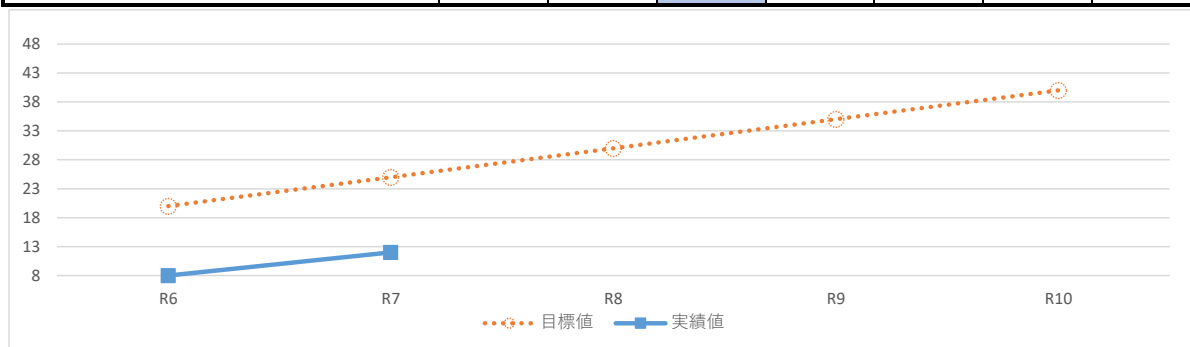
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	多世代交流拠点として公民館等の機能が十分に発揮されるよう、地域特性や町民ニーズを踏まえた事業の充実を図る。また、対象世代に偏りが生じないよう講座等の内容を調整し、効果的な事業展開に努める。令和8年度は、図書館児童図書コーナーを交流拠点として改修し、人が集い交流が生まれる図書館づくりを推進する。また、予科練平和記念館については、来館者の増加に向けた情報発信の強化を図る。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
誰もが気軽に学び、互いに学び合える機会の充実	地域の実情に応じた本町らしい活動が充実し、誰もが学べる機会が提供され、多様な人材が地域とのつながりを持ちながら活躍しています。	あみ未来塾、大学連携公開講座事務、あみ子ども大学事務、いきいき学びの町AMI推進会議、人材バンク事務、情報共有化事務
公民館活動の充実と活用	多世代のニーズに合わせた魅力ある学習機会の提供により、町民の学び合いや交流の充実が図られています。	公民館・コミュニケーションセンター定期講座事務
ふれあい地区館活動を通じた地域の連携強化	地域の特色に応じた魅力的なイベントが開催され、多くの町民が積極的に参加し、世代間交流や地域間交流が活性化しています。	ふれあい地区館活動事業
図書館の充実と活用	図書館サービスが充実し、多くの子ども、多くの町民が読書に親しんでいます。	図書館サービス事務 子ども読書活動推進事務 文化教育振興事務
予科練平和記念館の充実と活用	予科練平和記念館を平和教育の拠点として、予科練の歴史や本町の戦史が多くの人々に正確に伝承されることで、平和を希求する機運が醸成されています。	予科練平和記念館運営事務 教育普及事務

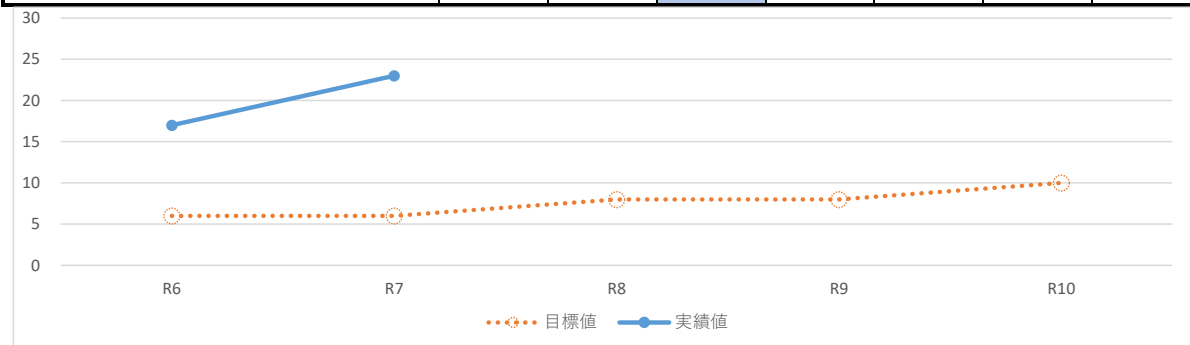
第3章 第1節 第4施策		関連する SDGs	4 質の高い教育をみんなに 17 持続可能な開発を
節	豊かな学びが育む人づくり		
施策	地域で育てる教育体制の充実		
目指す姿	地域を支える多様な人材が活かされ、家庭や子どもの教育が充実し、若者が地域で活躍しています。		
関連する課	生涯学習課	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画

施策の現状と課題	地域住民や団体等が小学校と連携を図り、子どもたちに様々な学びの場を設け、体験活動の機会を提供した。本郷小学校区放課後児童クラブを新築したことにより、部屋を増やし定員が拡大した。
----------	--

指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
奨学金返還支援補助金及び人材育成海外留学奨学補助金の交付件数	件	12		40		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	
		8	12			



指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
高校生会の活動回数	回	-		10		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	
		17	23			



施策の進捗	今後の取組方針
B	奨学金返還支援補助金及び人材育成海外留学奨学補助金の制度について近隣市町村の調査を行い、制度改正が必要であるか検討する。放課後児童クラブ等において、子どもが安心して通える児童クラブであるよう施設管理を行っていく。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	奨学金返還支援補助金は7件（うち継続6件、新規1件）、人材育成海外留学奨学補助金は1件の交付を行った。
R7	奨学金返還支援補助金は11件（うち継続7件、新規4件）、人材育成海外留学奨学補助金は1件の交付を行った。 本郷小学校区放課後児童クラブの2クラス増により（160人から240人可能）待機児童の減少に努めた。 高校生会には様々なイベントに参加支援してもらっているが、特にマラソン大会での受付、表彰式の進行については活躍いただいた。
R8以降	（次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します）

今後発生が予測される課題
奨学金返還支援補助金及び人材育成海外留学奨学補助金を交付し、周知方法や制度について検討する必要がある。 また、放課後児童クラブの待機児童解消方法を調査し、滞納対策について検討する必要がある。

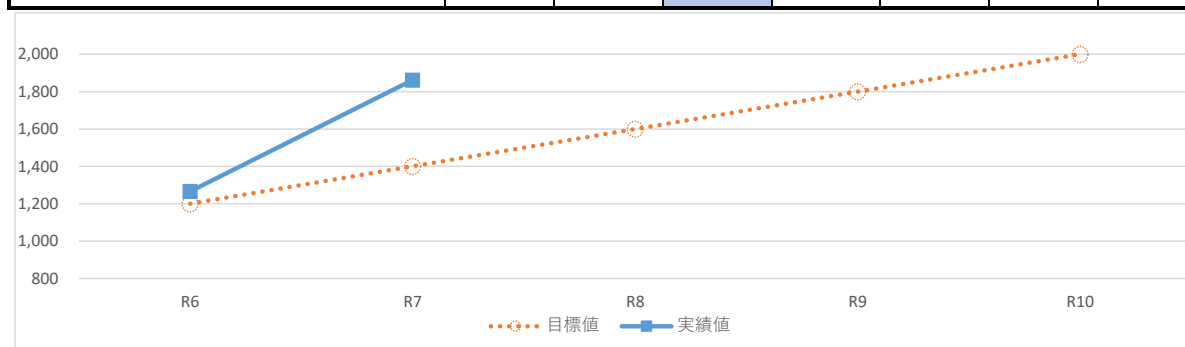
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	子ども会育成会連合会、学校運営協議会と連携しながら、登校班の編成や立哨当番の保護者負担の増加など、顕在化している問題を解決できるよう取り組む。 高校生会の活動が、将来の阿見町を担う人材育成に結びつくよう活動メニューの充実を支援する。奨学金返還支援補助金等の利用促進と支援効果の見える化に取り組む。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
家庭の教育力の向上	家庭教育の充実や人材育成のための経済支援により、学びの機会が増え、未来のまちづくりを担う人材が育っています。	家庭教育支援事務 教育の日講演会事務 人材育成奨学金支援事業
地域の教育力の充実	地域・家庭・学校・行政が一体となり、子どもたちの教育を支援しています。また、高校生会等の活動により若者の地域への愛着が醸成され、地域を担う人材が育っています。	青少年健全育成事業 高校生会支援事務
青少年健全育成の推進	学校教育と社会教育の機能連携により、子どもたちの学習の質が向上しています。また、地域連携の強化により青少年の健全育成が図られています。	学社連携事業 青少年健全育成事業
多様性と包摂性を育む生涯学習の推進	多様性を認め合い、誰もが差別されない人権意識が地域社会に浸透しています。	人権教育推進事務
子どもの居場所づくりの推進	すべての児童が放課後に安全で安心して活動できる居場所が確保されています。	放課後児童健全育成事業 放課後子ども教育事業 放課後児童施設整備事業

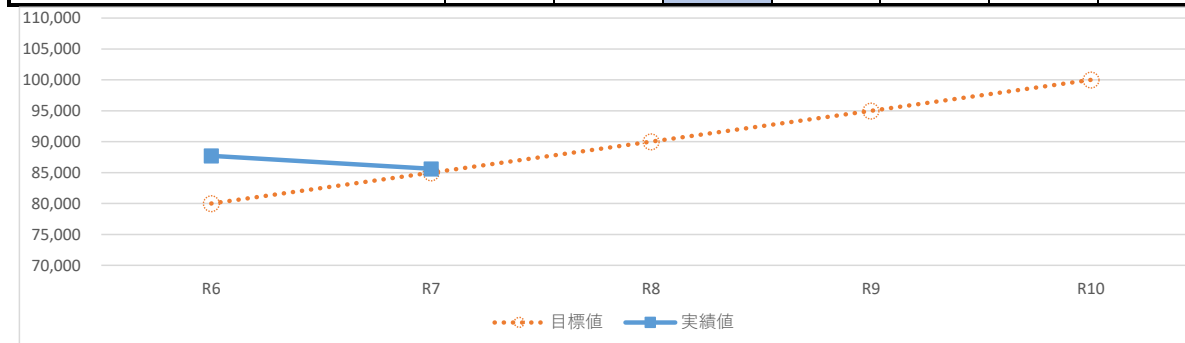
第3章 第1節 第5施策		関連する SDGs	3 持続可能な 社会を実現	11 持続可能な 都市づくり
節	豊かな学びが育む人づくり			
施策	誰もが楽しむことができるスポーツの推進			
目指す姿	ライフスタイルや多様なニーズに対応し、年齢や体力、障害の有無を問わず、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境が充実しています。			
関連する課	生涯学習課	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画	

施策の現状 と課題	全町民を対象としたスポーツフェスタ・マラソン大会を開催し、より多くの町民がスポーツを楽しめる環境を整えることができた。 イベント内容を吟味し、スポーツフェスタではイベントブースとキッチンカーを設置、マラソン大会ではファミリーマラソンの種目を追加した。
--------------	--

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
スポーツイベントの参加者数	人		811		2,000		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		1,266	1,862				



指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
総合運動公園の年間利用者数	人		78,337		100,000		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		87,712	85,617				



施策の進捗	今後の取組方針
B	町内外に向けた効果的な広報・情報発信に取り組み、来場・集客の促進や、町の知名度向上を図ることで、交流人口の拡大につなげる。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	スポーツイベントを実施し、町民のスポーツ・健康志向を高めることができた。 各イベントについて例年同じ企画となっているので、新しいやり方を取り入れてさらなる町民の需要に応える。
R7	ライフスタイルや多様なニーズに対応したスポーツ事業、環境整備を実施するとともに、総合運動公園のB球場照明設備のLED工事を行い、快適なスポーツ環境の整備を推進した。 また、スポーツフェスタやマラソン大会の内容充実を図ったことで、スポーツを「する」だけでなく、「見る」「楽しむ」「交流する」機会の創出につながり、地域活性化や町の魅力発信にも寄与した。
R8以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを推進するためには、スポーツ施設の適切な維持管理やスポーツ協会及びスポーツ推進委員の指導者・運営人材の確保、多様なニーズに対応した事業展開が課題となる。 また、担当課内外でのイベント連携や、スポーツを通じた地域活性化に向けた効果的な情報発信についても引き続き検討していく必要がある。

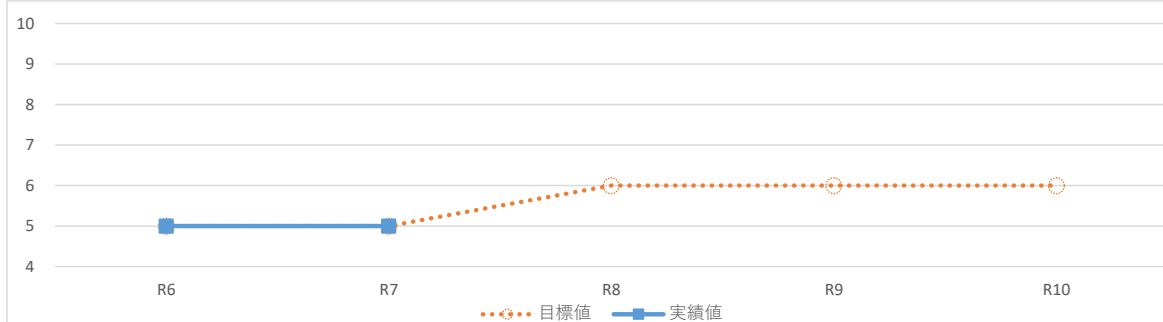
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	年齢や体力、障害の有無を問わず、だれもがスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、多様なスポーツ機会の提供やスポーツイベントの充実を図る。 併せて、町内外への情報発信を強化し、スポーツを活用した地域活性化や交流人口の拡大を推進するとともに、利用者ニーズや社会状況を踏まえながら、利用しやすい施設運営と維持管理に努める。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
ライフステージに対応した生涯スポーツの推進	より多くの町民がスポーツを身近に感じ、いつでも・どこでも・誰でも楽しめる機会が整っています。	スポーツフェスタ事務 スポーツ教室事業 学校体育施設開放事務 スポーツ大会事業
スポーツに親しめる環境整備	町民のスポーツの拠点として総合運動公園、町民体育館、旧学校体育施設等の体育施設が適切に維持管理され、利用者のために良好な状態が保持されています。 また新たな施設の整備について検討が進んでいます。	総合運動公園維持管理事業 町民体育館維持管理事業 学校体育施設開放事務

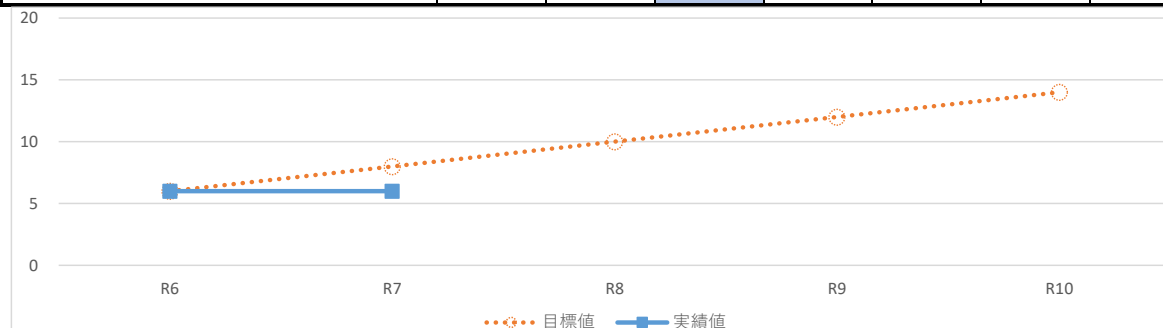
第3章 第1節 第6施策		関連する SDGs	8 質の高い教育をみんなに	11 文化遺産を守る
節	豊かな学びが育む人づくり			
施策	豊かな文化の継承と文化財の活用			
目指す姿	質の高い多様な文化芸術に触れる機会があり、自然や風土、歴史、文化が世代を超えて受け継がれ、日常生活に深く根づいています。			
関連する課	文化課	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画	

施策の現状と課題	町内に埋蔵文化財包蔵地は216遺跡あり、開発等の必要に応じて試掘確認調査、本発掘調査を実施している。本発掘調査により出土した遺物の保管場所や展示場所が課題となっている。戦跡保存については、平和教育の啓発をどのように行っていくかが課題となっている。
----------	---

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
埋蔵文化財の保護啓発件数	件		5		6		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		5	5				



指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
普及啓発した戦跡の数	件		4		14		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		6	6				



施策の進捗	今後の取組方針
B	出土した遺物の適正な保存と整理を行い、展示内容を変えるなど普及活動を行っていく。戦争を知る世代が少なくなる中、今後戦争遺跡の果たす役割が大きくなることから適正な保存と活用を行い、効果的な情報発信に努めていく。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	歴史や文化財の保護を行っていくうえで、町民のさらなる理解と協力を得ていくためにも、その成果の普及啓発は必要不可欠といえる。 中央公民館のロビーにて、町内5遺跡の発掘調査の成果の展示を行った。 また、町の近代化の歴史の一部である戦争遺跡について、広報あみやホームページ等にて6件分の紹介を行った。
R7	歴史や文化財の保護を行っていくうえで、その成果の普及啓発は必要不可欠といえる。 中央公民館のロビーにて、町内5遺跡の発掘調査の成果の展示を行うとともに展示の拡充に向けた準備を進めた。 町の近代化の歴史の一部である戦争遺跡について、広報あみやホームページ等にて6件分の紹介を行った。 また、町史編さん事業を進め、本編の章立てについてホームページにて公開した。
R8以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
出土した遺物の保管場所の不足や展示をする場所の確保が必要となる。 また、次世代に残すべき文化や語り継がれてきた町の歴史を計画的に保護し、次世代へ引き継ぐことが求められる。

施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	文化芸術団体への支援を通じて活動の活性化を図るとともに、その魅力を広く発信し、町民の参加促進につなげていく。埋蔵文化財については、県事業を支援しながら、出土品の保管・展示に関する課題への対応を検討する。また、町史編さんを計画的に進め、その成果を継続的に町民へ発信していく。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
価値ある歴史・文化の継承の推進	文化芸術活動が活発に行われ、町民が芸術に身近に触れる機会が充実しています。また、文化芸術活動への興味関心が醸成されています。	文化啓発事業 文化啓発事業
歴史的・文化的遺産の保存と活用	歴史資産が良好な状態で保全され、町の文化遺産として広く歴史的価値が共有されています。	指定文化財保護事業 埋蔵文化財保護事業 町史編さん事務 戦跡保全事務